

## 第 6 回 文化交流施設整備検討会【要旨】

日 時	令和 4 年 3 月 1 5 日（火）午後 5 時 3 0 分～午後 7 時 3 0 分
場 所	荒川区役所 5 階 大会議室
出席者	<p>（委 員） 卯月盛夫委員長、齋藤啓子副委員長、沢木拓也委員          羽生冬佳委員、両角達平委員、町田高委員          鎌田理光委員、松田智子委員、小林行男委員          清水啓史委員、志村博委員、富永新三郎委員          北川嘉昭委員、古瀬清美委員</p> <p>（事務局） 伊藤地域文化スポーツ部参事、文化交流推進課担当          松崎再開発担当部長、能見再開発担当課長          住まい街づくり課担当</p>

### 1 開会挨拶、委員出席確認

### 2 議題

#### （1）中間報告の振り返り

- （事務局） 令和 4 年 2 月 3 日の荒川区議会文教・子育て支援委員会へ中間報告案を報告した際の意見概要について報告する。

まず 1 点目であるが、施設の可変性をどのように担保していくのか、また区民参画や施設については、中間報告が抽象的であるため最終報告では具体的な内容にしてほしいという意見、わくわく感を持った施設にしてほしいという意見があった。

また、気候変動対策や温暖化対策を行う際に、この施設内で遊びの感覚を取り入れながらこの施設がそれらにどのように役立つのかもテーマの 1 つとして検討会で議論してほしい。今後、検討会で議論を重ね、最終的な結論を見いだしてほしいという意見があった。

- （委員長） 気候変動対策はこの施設だけでなく、今後の検討として出てくる内容だろう。また、わくわく感を持った施設という重要な指摘もいただいた。

中間報告のため、文字が中心になりがちであったため、最終報告に向け、さらに検討をすすめていきたい。議会報告に特段、意見がないようならば次の議題について事務局から説明を願う。

#### （2）現地視察の振り返り

- （事務局） 会議前に日暮里駅からルートにっぼり、西日暮里駅前地区再開発地域、ゆいの森あらかわの視察を行った。第 4 回文化交流施設整備検討会の際にもドローンの空撮映像を流したが、今回視察をし、よりイメージが掴みやすくなったと思うので、再度、映像と上空写真を投影する。視察や映像から何か意見をいただければと考える。

- （委員） ゆいの森が立派で平日にもかかわらずいろいろな人が来ており、とても感化された。ボランティア講座の周知があったが、参加年齢含め多岐に渡っており、交流ができていたと感じた。大体定員が 20～30 人程度のため、講座へ行くことの楽しみやいろいろな人を呼び込めるなど、輪が広がっていくのではないかと思う。

- （委員長） 今回、子どもの科学体験コーナーを見学し、興味深いプログラムがあると感じたが、それらは講座指導員が独自に作ったものが多いと伺い、直営施

設にも関わらずオリジナルでプログラムを作っていることに大変感心した。

- （委員） 視察での第1印象として、西日暮里地域は高低差や線路が入り組んでいるなど動線が複雑な地形であることを改めて認識したとともに、外国人も多くいるまちがあることも特徴の1つと感じた。

また、ゆいの森については、図書館機能がありながら、世代を区切らずにあらゆる人が利用できるよう門戸を開き、厳しい規制等もほとんどなく居心地がよさそうに緩やかな感じを受けたうえ、若者が施設に来ている理由も理解できた。一方で、ゆいの森は図書館であるので、学びを目的とした体験スペース様の機能が必要と考えるが、そのような場所へ余暇を求める若者は来づらいと考えるため、文化交流施設については、そのあたりの機能は変更して取り入れることが可能かなと感じた。

文化交流施設の機能で提案だが、表面上はこれまで話し合っている機能を出しながら、若者を必要に応じ福祉的な機能へ繋ぐためのワンストップ窓口が入る必要もあると考える。全国に若者相談センター窓口はあるが、相談する若者はなかなか来ない。日常的な関係が築けて、文化交流的な媒体がある場所に専門職員を配置すると、若者の表立って出ていないが福祉支援が必要な部分に気づき、福祉へ繋げることができるだろう。

- （委員） 西日暮里再開発エリアの認識は出来ていたが、視察し再認識できた。ゆいの森の体験コーナーにいた職員は荒川区の学校を卒業した人で後世育成をしてきている。文化交流施設の完成に向け、検討していきたい。
- （委員） 西日暮里は、通勤客は多いが、日中はそこまで人が多い地域でないため、商業施設や文化交流施設が人を呼び込む魅力的なものを作れるか少し不安であるが、検討していきたい。
- （委員） 自転車が多いことを再認識した。再開発で駐輪場を増やすのか、シェアサイクルを大規模に取り入れるのか雑多な感じが出ないように整備をしてほしいと改めて思った。
- （委員） 朝夕の通勤時間は多くの通勤者がいるため、24時間のつながりも考えて再開発するべきと感じている。
- （委員） 再開発エリアの動線を工夫する必要があると感じた。
- （委員） ゆいの森の検討は、開館までに約10年の時間をかけて行ったが、コンセプトの1つとして「静かにするのをやめよう」、用がなくてもふらっと来れるような「無目的」を許容できる施設、活字離れや理科離れが問題となっていたため、それに触れる機会を増やすこともコンセプトとした。当初、ゆいの森近辺は、人通りがなかったが、ゆいの森とカフェができ、人通りが増えていった。

西日暮里エリアも同様で、商業施設が出来ることにより、この場所は駅からも近いゆいの森以上に人通りを生み出せると考える。

- （委員） 今回、道灌山エリアを歩いてみたが、寺越しに日暮里などの再開発ビルが見え印象的な景色だった。崖と線路が江戸時代の歴史と近現代の境目になっているともいえるし、線路が結びつけているイメージもあり、印象的だった。

また、駅前にオープンスペースがあるのに広告の統一感がないため活かされておらず、利用する人が心地よく思えるデザインコードがあると、来訪を歓迎されていない感じが薄れるのではないだろうか。一方で、西日暮里駅の高架下のお店の看板は、1つのまとまりがあるようになっていて、非常に親しみやすく感じたし、高架の風景は、見方によっては魅力的なものになる。高架と鉄道動線で囲ま

れている地域はすごく感動的で23区でここしかないのではないかとこの風景であり、売りにできると良いと感じた。

- (委員長) 再開発エリアは、三方が鉄道に囲まれた敷地であるため、設計はしやすく感じたが、低層階の利用は風の影響があると想定されるため、制限されるだろう。景観を色彩や緑化、デザインで作りこめたらそれを逆手にとり特徴になるのではないかと。

また、駅前広場は、それほど大きな面積ではないと思うため、各駅からの動線を考えた場合、1階の交通広場も重要だが、2階のデッキ部分にももう少し広がりを持つことにより、単なる通路ではなくて、ちょっとした広場を設える方法もあるのではないかと考えた。

### (3) 文化交流施設の機能・役割

- (事務局) これまでの4象限が具体的な機能となるようにキーワードでまとめてきたところである。今回の議会報告で、わくわくする施設にしてほしいという意見もあり、4象限からより具体的な機能を検討できるよう今回、8つのキーワードを記載したところである。

まず、「学び」と「創造」「働く」「モノづくり」は、目的を持って活動するものをキーワードとした。また、「食べる」「多世代交流」「自然」「憩い」は、無目的な部分もある活動のため、無目的側に記載している。それぞれのキーワードは、グラデーションがあるものと思っており、各々が影響しあって変化していくことができたらいいと考えている。8つのキーワードとそれぞれのイメージ写真、施設機能などについてご意見をいただき、空間的な施設イメージを踏まえながら具体化していきたい。

- (委員) 区民が求めているものが、第1に必要なものであると考えるが、自分の経験がない中で「こういうものをください」とは言えないだろう。この検討会では、利用者が欲しているものを想像し、検討する役割と捉えているが、それを8つのキーワードのどこに位置づけるべきかを考えた際、中間報告にもあるように、芸術文化に触れて楽しむ機会を増やすとか学びの機会、交流の充実というものに役立つものが一体何であるかを、追求することではないかと思ったところである。

また、この文化交流施設は、場所を作っておけば勝手に使ってくれるような場所を目指すのか、それとも講座のようにプログラムを作り込んだものをどれぐらい用意するのかバランスをどうするのか考えた。特に、後者の場合、それを誰が行うのか。直営は限界があるし、専門スタッフがいるとしてもキーワードにある「働く」や「モノづくり」については、教育現場や職人との協力が必要であると想定されるため、各々の機能の組織づくりに大分時間を要するだろう。

さらに、区外から人を呼びこむためには、居場所として価値のあるものを作ることが必要であり、眺望が良いだけでなく、飲食や一緒に行った人と会話が成立するための要素が仕掛けられていることが大切である。この施設は、富士山が見えることが付加価値の一つでもあるし、金銭を払って出来ることをレベル分けして仕掛けることも良いと考えるが、商業施設との連携が重要である。

- (事務局) 無目的の仕掛けを取り入れることで、自分なりの居場所を作れるような場を目指していければと思っている。4,000㎡は広いので、全てが無目的な空間ではなく、ゾーニングや各機能のグラデーションをつけていきたい。体

験のプログラムを作りこむ場合、直営は厳しく、民間と連携する必要がある。

作りこまれた空間と無目的でいられる空間の両方が共存できるようなものがここの中で作れたらよいと考えているし、この空間があることで、利用者自らが自由に空間を使い、この場所で自らのレベルアップができるような仕組みを取り入れることもこの施設の担う役割とも考えている。

- （委員） この文化交流施設は誰を対象に考えているのか。
- （事務局） 誰でも使える施設であるが今回の視察からも考えると、時間帯や曜日でプログラムを変えていくことも、仕掛けていけたら良いのではと考えている。そのための設備や機能のグラデーション、動線を検討していきたい。
- （委員長） ゆいの森と比較した場合、文化交流施設は、もっと動的な部分やもっと激しい想像力が掻き立てられるようなイメージがあっても良いと思っている。例えば、これからの荒川区を背負っていく小中高生の子どもたちが、学校、自宅でもない第3の居場所として伸び伸びと過ごせ、想像力を発揮できるようなものを、時間帯等区切るなどし、優先的に考えるのはいかがか。
- （委員） ゆいの森の場合は、階数ごとに目的が違い、完全に区切られているが、文化交流施設は、4, 0 0 0 m<sup>2</sup>とはいえ、ワンフロアであるため、区切るのが難しいと考える。

文化交流施設の機能や役割は、現在4つのグラデーションで分類されているため、挙げられている機能の中から、ここで出来そうなものを1つずつ細かに検討していくのはどうか。
- （委員長） 細かに検討することは必要であるが4, 0 0 0 m<sup>2</sup>あるため、片方は動的、片方は静的なことで仕切ることも可能だろうから、1つの時間帯に1つの機能のみに絞る必要はないだろう。
- （委員） ゆいの森は地域柄、区民が主に利用する施設、各地域にはふれあい館もある。西日暮里利用者は区民だけではなく区外の人が多いため、ゆいの森等と全く違い今まで区にないものというイメージで考えている。
- （委員） 視察をして、外国人向けの店が多かったり、インバウンドで日暮里繊維街に布を買いに来るといふことで、この施設を考えるうえで異文化交流が抜けていることが気になった。
- （委員） 親等に連れられてくる小学生くらいまでは、無目的で何でもできる空間を楽しむと思うが、自分が中・高生の時、毎日やりたいことがあったことを思い出すと、その世代が無目的で何でもできる空間を欲しているか疑問である。
- （委員長） この場所は、無目的な空間と言いつつも、やりたいことを比較的自由にできる空間というイメージで捉えるのはどうか。本当の無目的という意味とは確かに違うかもしれない。
- （委員） どの年代でも日常生活で目的的なシーンと無目的なシーンがあるだろう。事例報告で余暇時間と無目的な空間を話した当初に立ち返ると、無目的とは、義務的な時間や空間からの解放のために、義務的な部分以外のところを持つておくという考えであり、そこで目的的な活動をする人もいれば、そうでない人もいるということである。そのための施設が、文化交流施設であり、目的があって活動する子、そうではない子もいて、この施設がみんなに開かれているということが大事だと思っている。
- （委員長） 「学び」「創造」など8つキーワードを記載したが、全部同じ分野ではないと考えている。例えば3つぐらい大きな機能のような上位概念を決め、

それを展開するための方法論を4～5つ程度、マトリックスで整理して具体的に  
する必要があるだろう。1番上位に、例えば、「生活文化で遊ぶ」「生活文化をつ  
くる」等の新しい概念を定め、それに合うキーワードが入るような整理を行うこ  
とで、分かりやすくなるように検討を進めていきたいと思っている。

- （委員） 施設で何かプログラムを行う場合、一般的には、1回ごとに完結する  
イメージと思うが、例えば、この文化交流施設では365日来たいときに来て  
も、前回のものがまだ続いているような長い期間のプログラムがあり、最終的に  
は、自主的に「これやりたいかも」と各々が気づける開かれた空間であることも  
重要なことの1つと思っている。委員長からあった「遊ぶ」「つくる」は、この  
考えに共通するキーワードであり、コンセプトの集合体を作ることが出来る  
のではないかと思う。

「調べる」を8つのキーワードに追加し、まちの歴史を調べみんなで見える化  
するプログラムを行うことで「学び」、「憩い」などのキーワードに結びつけるこ  
ともできるのではと思った。

- （委員） この施設は誰でも対象であるが、区と一番接点が少ないのは、中高  
生、特に高校生であるため、検討会で重点的に議論してもらえると有難い。教育  
的な要素を強くしすぎると来にくいだろうから、例えば、夏祭り会場のように気  
軽に来られるよう曜日と時間で専門的な出店がある一方で、のんびりしゃべって  
いる空間があるなど、空間に多様性がある施設になるとうれしいし、福祉的窓口  
もあり、いろいろなものが入り乱れた4,000㎡ができないものかと考えてい  
た。

- （委員） 公共施設は、いろいろなニーズに気づける場所でもあり、それが役割  
の一つである。交流の中で様々な課題に気づくことが非常に重要である。

「学び」など8つのキーワードが多ければ、この施設を利用する人それぞれの  
入口が違うだけで、最終的にこの施設を利用してくれるきっかけとなるのではな  
いかと考えている。このキーワードから上位の核となるものを絞り込んでいくの  
が課題かと思う。

私自身、7階の4,000㎡に行く場合を考えると、居心地のいい空間があ  
り、そこで遊び心をくすぐられたり、好奇心が増すような新しいきっかけを与え  
てもらえるような場であることが、この施設の重要なキーワードと思っている。  
また、人生100年と言われる時代のため、シニア世代にとってもここが魅力的  
な居場所となることにより、異世代の中高生と友だちや仲間になったり、年長者  
の経験が相談や福祉的な繋がりとなることも期待できると思っている。

- （委員） 様々な世代や多様な人が繋がるヒントとしてオタク的要素、特定のこ  
とに詳しい、尊敬できる部分となるが、年齢は関係ない。自分が一生懸命になれ  
るようなテーマは人それぞれ違うだろうが、それらを伝授したり技を磨けるよう  
なふれあい出来るメニューがいくつかあると魅力的ではないか。

- （委員） 私たちがプログラムを作ったところで、若者には響かないため、当事  
者に議論してもらう必要がある。その場合は、私たちの方から若者のたまり場に  
会いに行くところから始める必要があるし、若者支援やユースワークで伴走する  
職員に話を聞いていくことも必要になってくるかと思う。

- （委員長） 本日のまとめとなるが、若者の居場所や福祉的窓口、シニア世代の  
居場所とあったが、それぞれで体制もスタッフも違うだろうが、文化交流施設の  
1つの役割である。この施設は、4,000㎡あるため、さらに違うものが3

つ、4つ程度あっても十分成り立つ施設と考えている。今後、大きなコンセプトの次に3つ程度、その下にまた小さなプログラムを想定した場合、この空間でどのぐらいのバランスとなるか落とし込み、必要なスタッフ数や空間の組み合わせを整理し、次回議論するというのはいかがか。

- （事務局） 今回、空間の活用イメージを共有するために、写真形式で資料を出したところである。次回は、空間としての使い方を資料として作れるようにと思っている。今回の検討会の意見から、この施設機能の上位の概念をどのようにするか、マトリックスの雛型となるような資料を検討したい。

### 3 次回日程

### 4 事務局からの連絡事項